

様式1		令和5年度 清瀬市立清瀬第四小学校		学校評価計画	
学校の教育目標		◆すなおな明るい元気な子 ◆よく考えやりぬく子 ◆なかよく力をあわせる子 ◆自然に親しむ子		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	
目指す学校像(ビジョン)		【目指す学校像】 ◆わくわく感のある学校 ◆安心感のある学校 ◆達成感のある学校 【目指す児童】 ◆よく聞き、よく考え、よく話し・よく書く児童 ◆あいさつ・返事・言葉づかい・整理整頓ができる児童 ◆仲間を励ます思いやりのある児 【目指す教師像】 ◆最後まで見届け、励ます教師 ◆人権感覚・いじめに敏感な教師 ◆児童の思いや願いを引き出せる教師 ◆保護者の思いを受け止める教師		1. 目指す資質・能力 「粘り強く取り組む態度」、「考えたことをわかりやすく伝える力」、「見る・聞く・覚える」に重点をおく。 2. 特色ある教育活動 ①言語力を伸ばすための読書活動、スピーチ活動、音読・暗唱活動、漢字習得と活用 ②算数の学力向上のための「東京ベーシック・ドリル」を積極的な活用と、個の課題に応じた宿題の設定等。 ③日常的に体力向上のために、体育授業で運動量20分の確保することや、中休みや昼休みを活用して運動遊びの日常化を推進する。 ④全校実施の「コグトレ」で、集中力を養いながら、「見る・聞く・覚える」ことへの抵抗感を和らげる。	

前年度までの学校経営上の成果と課題

・昨年度、個に応じた指導に取り組み、特に算数については学力調査での数値も上がった。

・今年度の課題として捉えているのは、言葉の乱れや挨拶ができない等、コミュニケーションの力が弱いこと。言語力の育成が課題である。読書活動の推進はその基盤となり、国語授業で書く力や音読する力を養い、それが他教科に波及するように指導を進めていく。また、児童の困り感に対応し、置いてけぼりにならないよう児童一人一人が自己肯定感を高められるようにしていく。協働的な学びの過程で、多様な他者と共に解決策を見付けたり最後までやり遂げる粘り強さを培っていく。

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	学習意欲の向上と基礎基本の確実な定着を図り、学力を向上させる。	国語と算数の基礎・基本の定着を図る。	児童全員が各学年の国語教科書をすらすらと音読したり、東京ベーシックドリルの活用を図ったりする。	4 全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 診断テストで、80%以上が80点以上 3 診断テストで、70~79%が80点以上 2 診断テストで、60~69%が80点以上 1 診断テストで、60%未満が80点以上
		言語力の基礎をつくる。	読書貯金シートの記録や詩や俳句暗唱、スピーチ、漢字習得・活用等の活動を実施する。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 児童の達成度の評価A(児童の80%以上) 3 児童の達成度の評価B(児童の50%以上~80%未満) 2 児童の達成度の評価C(児童の30%以上~50%未満) 1 児童の達成度の評価D(児童の30%未満)
豊かな心の育成	思いやりのある児童の育成を図る。	異年齢集団で活動することをおして、お互いを認め合い、高め合う力を育成する。	にこにこ班(縦割り班)活動を生かしたボランティア活動を実施する。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答90%以上 3 教職員の自己評価で、肯定的回答80%以上90%未満 2 教職員の自己評価で、肯定的回答70%以上80%未満 1 教職員の自己評価で、肯定的回答70%未満	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 児童の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
		いじめを解決できる学校にする。	こころのアンケートを2か月に1回行い、丁寧な聞き取りを実施し、学校が楽しいという児童を増やす。	4 実施回数年間6回以上 3 実施回数年間6回 2 実施回数年間5回 1 実施回数年間4回	4 児童の満足度の評価A(児童の80%以上) 3 児童の満足度の評価B(児童の50%以上~80%未満) 2 児童の満足度の評価C(児童の30%以上~50%未満) 1 児童の満足度の評価D(児童の30%未満)
健やかな体の育成	健やかな体を育成する。	体力テストの分析を踏まえ、児童の体力向上を図る。	体育授業での運動量を20分以上を確保するとともに、マッスルデーや体育集会で持久力や俊敏性を高め	4 教職員の取組評価がA(8割以上の授業で実施できた) 3 教職員の取組評価がB(7割程度の授業で実施できた) 2 教職員の取組評価がC(6割程度の授業で実施できた) 1 教職員の取組評価がD(5割程度の授業で実施できた)	4 児童の満足度の評価A(児童の80%以上) 3 児童の満足度の評価B(児童の50%以上~80%未満) 2 児童の満足度の評価C(児童の30%以上~50%未満) 1 児童の満足度の評価D(児童の30%未満)
		食育を推進し、食生活の改善を図る。	食育を推進し、自分のもらった給食を粘り強く残さず食べる児童を育てる。	4 全児童の9割以上が、自分で決めた給食を残さず食べている。 3 全児童の8割以上が、自分で決めた給食を残さず食べている。 2 全児童の7割以上が、自分で決めた給食を残さず食べている。 1 全児童の6割以上が、自分で決めた給食を残さず食べている。	4 朝食を食べる児童が95% 3 朝食を食べる児童が85%以上 2 朝食を食べる児童が75%以上 1 朝食を食べる児童が50%以上
特別支援教育の充実	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境づくりを推進する。	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境の工夫・改善に取り組む。	各教室で、「指導のユニバーサルデザイン化チェックリスト」15の実践を学期ごとに自己評価していく。	4 チェックリスト項目の自己評価平均値が4ポイント 3 チェックリスト項目の自己評価平均値が3ポイント台 2 チェックリスト項目の自己評価平均値が2ポイント台 1 チェックリスト項目の自己評価平均値が1ポイント台	4 勉強や係や当番がやりやすく安心して生活している。95% 3 勉強や係や当番がやりやすく安心して生活している。80% 2 勉強や係や当番がやりやすく安心して生活している。70% 1 勉強や係や当番がやりやすく安心して生活している。60%
	ユニバーサルデザインの視点を取り入れたの授業力の向上を図る。	「焦点化」「視覚化」「共有化」を明確にした授業の工夫・改善に取り組む。	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の向上を図る。全教員が研究授業を1回以上行う。	4 実施3回以上 3 実施2回 2 実施1回 1 実施できなかった。	4 教職員の達成度の評価A 3 教職員の達成度の評価B 2 教職員の達成度の評価C 1 教職員の達成度の評価D
本校の特色	地域の特色を生かし、保護者との連携を深める。	豊かな自然体験活動や環境教育を推進する。	近隣の自然(せせらぎ公園等)を積極的に活用して体験活動及び栽培活動を行う。	4 実施回数が50回以上 3 実施回数が45回以上50回未満 2 実施回数が40回以上45回未満 1 実施回数が40回未満	4 児童の自己評価で、肯定的実感(児童の80%以上) 3 児童の自己評価で、肯定的実感(児童の65%以上80%未満) 2 児童の自己評価で、肯定的実感(児童の50%以上65%未満) 1 児童の自己評価で、肯定的実感(児童の50%未満)
		学校支援本部との連携を密にしてよりよい教育活動や校内整備を推進する。	各学年において、学校支援本部への依頼と協力によって円滑に教育活動が進むこと。	4 3回以上、実施した。 3 2回実施した。 2 1回実施した。 1 実施できなかった。	4 教職員の達成度の評価A 3 教職員の達成度の評価B 2 教職員の達成度の評価C 1 教職員の達成度の評価D